

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

楽しさあつての「趣味」の世界

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



趣味は何ですか?とたずねられたらどう答えますか。

「年に二度の登山、それを計画しているときがもっとも充実している」「マフソン大好き。サブ4・5(4時間半以内)が究極の目標」「競馬、競輪。依存症じゃないけどギャンブルに命をかけてるゾー」「いつもボウズ、でも釣りが最高」「十七文字のロマン、俳句が一番」「最近料理に凝っていてね、食べにおいで」「瞬を切り取る、写真がベスト」「僕には酒と涙と女しかありません」「カラオケのマイクは一度持ったら離さない」「ゴルフさんま。距離は出ないけれどまっすぐ飛ばよ」

いろいろな人に聞いてみたら、いろんな答えが返ってきました。書道、自伝史、短歌、川柳、詩吟、太極拳、家庭菜園、裁縫、編み物、水彩画、絵画鑑賞、読書、映画鑑賞、楽器、囲碁、麻雀など、まだまだあります。

もちろん、「いやあ、不調法で、仕事が趣味、としか言えない私は、なんと不幸なのか」「テレビだけが生きがいだよ、ちょっと寂しいけど」といった答えも、実はたくさんありました。

広辞苑で引くと、①感興を

さそう状態。おもむき。あじわい。②ものごとのあじわいを感じとる力。美的な感覚のもち方。このみ。③専門としてでなく、楽しみとしてする事柄。とのこと。②はあの人、の服は趣味がいい、などと使うので、今話題になっているのは③のこと。

専門家ではないから下手でもいいけど、せっかくだから、例えば勝負事ならば勝った方がもっと楽しいし、上手にできれば気分がいいですね。

「趣味です」と言う限り、それなりの修練を積み、それなりのレベルに達するべきだと言っている人が、普通はなかなかそんなゆとりはあり

ません。一生懸命日々を生活している人ほど、困難なのではないでしょうか。

暇とお金があればなあ、ということになりませんが、いざ時間ができたからといって始めずでに遅く、勝負には負けるし、上手にこなせません。しかし、忙しいときにこそ、何とか工夫してこの楽しみ、の時間をひねり出す喜びもあるのです。

今のうちに何かこれは、と思える趣味を始めておきましょう。楽しいことは長続きしますね。

かく言う私は、残念ながらも無趣味というか、逆に何でも好きで、全てがそれなので、これといって自慢できるものがあります。聞かれたらいつも「オモロイ人との出会いが趣味です」と言うことになっています。